



かわら版



第59回花いっぱいコンクール最優秀賞

小松市西軽海町1丁目町内会 「Nishikarumi1」

○ 鼓動 「石川県スポーツの振興・発展をめざして」	1
公益財団法人石川県スポーツ協会 会長 馳 浩	
○ 令和5年度 青少年ボランティア賞表彰式	2
○ 第14回美しい石川を歩く～加賀逆立ち狛犬めぐり～	9
○ 令和5年度 ふるさとのツバメ総調査結果	10
○ 薫風 未来へつなげる「石川郷土史学会」をめざして	11
石川郷土史学会 副会長 真山 武志	
○ 「あいむ」だより	13

鼓 動

「石川県スポーツの振興・発展をめざして」

公益財団法人石川県スポーツ協会

会長 馳 浩

本協会は、昨年4月に「石川県体育協会」から「石川県スポーツ協会」へと名称を新たにし、本県スポーツのさらなる振興・発展に向け、市町や競技団体の皆さんとも協力しながら、様々な取り組みを進めています。

近年、東京オリンピック・パラリンピックや杭州アジア競技大会での金メダル獲得をはじめとした、本県ゆかりの選手による目覚ましい活躍は、私たち県民に大きな夢と感動を与えてくれており、県民の皆さんのスポーツに対する関心はより一層高まっています。

このため、本協会としても、様々な大会やイベントを通じて、年代に関わらず、県民の皆さんの『スポーツをする、観る、支える』環境をより充実させ、石川県のスポーツを大いに盛り上げていきたいと考えています。

具体的には、海外での強化合宿等を支援し、国際舞台で活躍できるアスリートの養成を図るほか、各種スポーツ教室の開催により、スポーツを始めるきっかけと楽しむことができる場を広く提供するなど、「競技力の向上」と「スポーツの普及」の両面に取り組んでいるところです。

また、今年度からは新たに、当協会で「女性スポーツ会議」を設置し、女性がよりスポーツに親しむことができる環境を目指し、女性目線でのスポーツ振興について、意見交換を重ねているところです。

こうした本協会の取り組みも通じて、一人でも多くの県民の皆さんが、健やかで生きがいを持てる豊かな暮らしを実現されることを祈念申し上げ、巻頭のご挨拶といたします。

◇令和5年度青少年ボランティア賞表彰式

11月16日(木)に県庁行政庁舎特別会議室で、令和5年度「青少年ボランティア賞」の表彰式が行われました。今年度は8団体と1個人が表彰され、当日は本部長の馳浩知事が表彰状を授与しました。

表彰された団体・個人の皆さんは今できることを無理せず工夫して活動していました。内容は高齢者や町内会活動への支援や、慰問、子どもたちの見守りや支援、キャリア教育につながる学習支援、子ども会活動を通じた教育文化活動など、地域や学校において他の模範となる素晴らしい活動でした。

表彰式では馳知事から受賞団体・個人へ、感謝と敬意の言葉と共に、今回の受賞を励みに、地域社会の一員としての自覚と誇りを持って活動し、活動の輪をさらに広げていただきたいとの励ましの言葉が贈られました。また、受賞者を代表して、金沢市立十一屋小学校 運営委員会 の鈴木心道さんと沖田詩温さんがお礼の言葉と今後の抱負を述べました。

平成7年度から始まったこの賞では、今回までに延べ232団体、54個人が表彰されました。一人ひとりが社会の一員として、お互いに支え合いながら、思いやりのある豊かな社会を作っていくためにも、地道に社会に貢献する青少年ボランティアによるふれあいの輪の一層の広がりが期待されています。





【受賞者代表の言葉】

金沢市立十一屋小学校 運営委員会
鈴木 心道 さん 沖田 詩温 さん

(沖田さん)

本日は、8つの団体と個人を表彰していただき、ありがとうございます。馳県知事様からおほめの言葉をかけていただき、とてもうれしく思っています。受賞者を代表して、お礼申し上げます。

(鈴木さん)

僕たちの学校では、あいさつをととても大切にしています。特に玄関では立ち止まって会釈してあいさつをする伝統があります。校長先生や地域の方がすごいとほめてくれます。

僕たち運営委員会ではそんなあいさつがもっとパワーアップするように、毎日朝玄関に立ってあいさつ運動をしています。また、あいさつメダルを渡すなどの創造的活動にも取り組んでいます。

(沖田さん)

年2回、野田中学校と連携して、中学生ともあいさつ運動をしています。また、年3回自主的にあいさつ運動をしてくれる「あさボラ」の人たちともあいさつ運動をしています。

これからも、あいさつを通して、「笑顔でしあわせを感じられる学校」を目指して取組を続けていきます。今日、表彰を受けた先輩方のような活動ができるよう一生懸命勉強し、地域を明るく元気していきたいと思います。

本日は、本当にありがとうございました。

(鈴木さん)

令和5年11月16日

受賞者代表 金沢市立十一屋小学校 六年 鈴木 心道

(沖田さん) 沖田 詩温



【受賞者の活動】 団体の部

○金沢市立十一屋小学校 運営委員会

当番制で毎朝児童玄関の前に立ち、「廊下を静かに歩こう」などの生活目標を伝えながら「あいさつ運動」をしている。運営委員会の児童はその中心となり活躍している。また、年2回中学生とも連携。学校元気の推進役である。



○金沢市立泉野小学校 児童会生活委員会

毎朝校門で「あいさつ運動」を行い、全校の子どもたち地域の方々、校区の中学生や自転車通学の高校生など多くの人々に元気を届ける。最近はボランティアの輪が、生活委員会以外の子どもたちにも広がり参加者が増えている。



泉野の伝統から金沢、石川の伝統へ
あいさつ運動を通して自分から進んで行動する人が
増えたと思います。少し気がのらない朝でも、進んで声を
かけるうちに、学校が明るくな。たと思います。あいさつ
運動以外でも、すてきなあいさつをした人を校内放送で
放送する取り組みもしています。あいさつ運動にいくことのみを
意識するのではなく、自分から明るいあいさつをするための
練習の場として活用していきたいです。あいさつ運動が泉野の
伝統から、金沢、石川の伝統になるように取り組んでいきたいです。

○金沢市立野田中学校 生徒会

新型コロナ感染拡大防止から行動制限があったが、「雪かきボランティア」「あいさつ運動」は継続し地域に貢献した。令和3年度はSDGsの目標に対する新しい取組「文房具リユースプロジェクト」を実施した。



○石川県立加賀高等学校 キャリアアップ部

動橋町内のごみ拾いやJR動橋駅の清掃、地区会館での児童交流ボランティア活動などの地域貢献ボランティア活動に取り組み、感謝の声をいただくことも増えた。プランター花植えを行い地域各所への寄贈も行う。



○石川県立羽咋高等学校 教志未来塾

地元の中学3年生に対して学習支援ボランティアを行うことにより、中学生の学習意欲と学力向上に寄与するとともに、お互いの「社会性・連携性」を身に付ける機会にもなっている。本校生徒のキャリア教育の一環ともなる。



○専門学校金沢リハビリテーションアカデミー 学生会

学校が立地する地域でのボランティアに興味を持ち活動を開始。「そくさいカフェ・こまちなみ」への参加や新登町校下社会福祉協議会との「雪かきボランティア協定」をとおして一層意欲的に活動に取り組む。



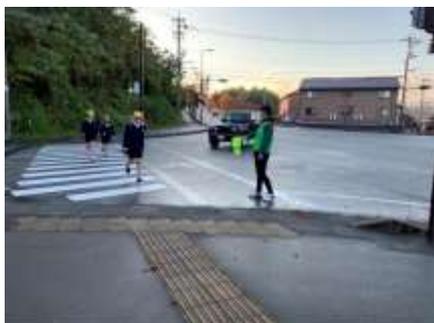
○学生サークル小梅

『つどい場はなうめ』の活動趣旨に共感し、がんを経験した子どもと家族のために役に立ちたいという熱い思いを持ち設立。活動は、多様性を尊重した共生社会の在り方について提言できる保健医療従事者の育成に貢献する。



○金沢大学アメリカンフットボール部

田上小学校の児童に対する朝の安全サポートを継続的に行う。講義前の時間を利用し、交差点での児童への声掛け、運転者・歩行者への呼びかけを行う。地域の安全に貢献するとともに、自らの行動を律する機会にもなる。



【受賞者の活動】個人の部

○山谷 昌平 さん（金沢市子ども会連合会シニア委員会）

中学生の時から金沢市子ども会連合会の少年委員、リーダー委員として活動に関わる。社会人となってもシニア委員として、少年委員やリーダー委員の育成、子ども会活動に協力。「かなざわユースプロジェクト」にも参加した。



◇ 第14回美しい石川を歩く ～加賀逆立ち狛犬めぐり～

誰もが気軽に実践できる日常的な体力づくりのひとつとして「歩くこと」を推進するため、自然や文化を楽しみながら歩く機会を設けています。今回は10月12日（木）「加賀逆立ち狛犬めぐりコース」にて歩く会を開催しました。季節はずれの少々暑いくらいの好天のもとで実施することができました。

参加者は、JR金沢駅地下広場に受付開始を待ちきれないかのように早々に集まりはじめ32名全員がそろった時点で、予定より早く開会式を行いました。

日ごろから歩かれている健脚な方、そうでもない方、57歳から82歳までの幅広い年齢構成。入念な「準備運動」を行い、ボランティアスタッフを先頭に歩き始めました。経由地である小坂神社では今回のテーマ「狛犬」にまつわるお話を聞き、観光客でにぎわうひがし茶屋街を抜けてゴールの石浦神社まで歩きました。



【足取り軽くスタート】



【逆立ち狛犬前でお話を聞き】



【さあ、休憩でリフレッシュして】



【ひがし茶屋街を抜けて】



【もうすぐゴール】

「加賀逆立ち狛犬」

一般に「阿形」「吽形」左右一対で狛犬と呼ばれているが、「阿形」は獅子とのこと。金沢市内の寺社では、神仏から見て左側に「吽形」狛犬が配置されていることが多い（一般的には逆）。

全国的にも珍しい逆立ち狛犬の起源は、加賀とび説、九谷焼図柄説や角兵衛説など諸説あるが、石工の技量を誇示する「はやりもの」ともいわれている。

◇令和5年度ふるさとのツバメ総調査結果

愛鳥週間の令和5年5月10日から16日までの間に、県内の全公立小学校・義務教育学校 179校の6年生を中心とする児童約9千人によって行われた調査結果を発表します。

この調査は、ふるさとの環境を見つめ、自然を愛護する心を育み、生き物への関心を高める機会となることをねらいとして、昭和47年から実施しています。

令和2年、3年度と新型コロナウイルス感染症の影響により調査が中止となり、今年度は奥能登地震等の影響により、一部の小学校で調査が中止・縮小となりました。



【調査結果概要】

(1) 成鳥確認数 6,350羽 (令和4年比 △365羽、△5.4%)
→ 成鳥確認数：調査時に児童が巣の付近などに止まっているツバメを目視確認できた数。(飛んでいるツバメは数えない。)

(2) 使用中の巣の数 6,078個 (令和4年比 500個、9.0%)

(3) 考察

ツバメが生息するには、エサとなる虫、巣作りの泥、巣を作る場所の環境が整っていることが必要ですが、近年、そうした条件の悪化が強まっているため、ツバメを確認する機会が減ったのではないかと推測されます。

特に、巣作りの場として適している住宅以外の建物(車庫、納屋等)で巣の確認数が減少している理由として、防犯意識の高まりなどで、戸締りをする車庫や納屋が増えるなど、受け入れる側の意識の変化、生活様式の変化などが関係しているものと思われます。

加えて、今年度は奥能登地震や新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の学校で調査を中止・縮小したことなどもツバメの確認数減少の一因となっていると考えています。

(4) 調査に参加した児童の感想

- ・これからは、地域の方々とツバメを見守ろうと思った。
- ・自分の家にもツバメが来たら、歓迎して、過ごしやすそうな環境にしたいと思った。
- ・地域の方々の、ツバメを受け入れる気持ちを知ることができて、うれしくなった。

未来へつなげる「石川郷土史学会」をめざして

1、石川県の歴史研究の先学として『越登賀三州志』を現した富田景周、『金沢古蹟志』を初め緻密な検証によって白山の所屬を「加賀の白山」とした森田柿園、『石川県史』『加賀藩史料』を編纂した日置謙の三氏を忘れてはならないと思います。石川郷土史学会の母体はこれらの先学の跡を受け、大正4年（1915）に設立した『加越能史談会』です。その後昭和27年（1952）戦争で郷土史研究が停滞気味であったのを憂慮した当時の県立図書館長市村新氏が当会を立ち上げました。氏は京大哲学科を出て図書館の一般職員として採用された気骨の人でもありました。

2、本会の事業は、郷土の貴重な文献の発掘・調査・保存があります。一例として古俳書コレクションである月明文庫の整理保存があります。また毎月会員が自らの研究を発表する例会を開催し本年11月で519回を数えます。このように長期にわたり回数を重ねる歴史研究会は珍しいと言われています。また本年で56号となる『石川郷土史学会々誌』を年1回発行しています。郷土に根ざしたバラエティーにとんだ興味深い論考が多いのも特徴の一つです。大学からバックナンバーを全てとりそろえたい旨の申し込みもあります。

3、さらに好評を得ているのは、健民運動の一環として実施している「歴史散歩」があります。この行事も今年で98回になります。本年は10月14日に浅野川大橋から下流を中心に実施しました。参加の一般人からも会員が作成した資料が「大変参考になる」と評判で、特に古写真を交えた解説が大いに喜ばれました。

4、当会の会長はこれまで県立図書館長が兼任していましたが、令和4年から会員から選任され、事務局も石川県教育委員会生涯学習課にうつりました。新たな局面を迎えた訳ですが、これを機会に一層の自己研鑽を積み、時代の変化を見つめながら、歴史に興味を持つ新しい若い人たちが集う史学会にしたいと決意しているところです。



毎月会員が自らの研究を発表する例会



健民運動の一環として実施している「歴史散歩」

『あいむ』だより



収集物(9・10月分) <使用済み切手など>

小松市立国府中学校、石川県(行政情報サービスセンター、厚生政策課、資源循環推進課、水産課、都市計画課、石川県職員労働組合)、匿名の方

合計8件 ご協力ありがとうございました!



ご提供いただきました使用済み切手、書き損じハガキにつきましては、切手収集家等に換金してもらい、海外への医療従事者派遣や視覚障害をもつ学生の育英事業などに役立てていただいております。ぜひお寄せください。

チラシ・資料等の印刷に

『作業室』をご利用ください!

- ・輸転機(モノクロ) ⇒ 高速で両面印刷可能です。
(片面100円・両面200円)
※用紙はご持参ください
- ・丁合機・紙折り機 ⇒ 手間のかかる資料の仕分けや紙折り作業に便利です。

他にも

裁断機・紙そろえ機・大型ホチキス・パンチ

・コピー機・パソコン・プリンター等

作業に便利な機器が揃っています!

作業室のご利用は
無料です!



『ホームページ』で紹介しませんか?

NPO・ボランティア関係団体の皆さまからいただいたチラシ、会報、イベント等をNPO活動支援センター(あいむ)ホームページの『イベント情報』に掲載しています。



<https://www.ishikawa-npo.jp/event/index.html>



チラシ・パンフレット等をより多くの方に見てもらえるよう、お手伝いします!

皆さまからの「チラシ・パンフレット」をお待ちしております!



石川県NPO活動支援センター(あいむ)

〒920-0961 金沢市香林坊2丁目4番30号 香林坊ラモーダ7階

TEL:076-223-9558 FAX:076-223-9559

<https://www.ishikawa-npo.jp> , E-mail:npo@ishikawa-npo.jp

会議・打合せ等に「あいむ」をご利用ください!(会議室使用料無料)

・お問合せ、ご予約はお電話等にてお気軽にどうぞ。

《9:00~22:00(土、日は17時まで、月曜日・祝日・年末年始は休館)》

・香林坊地下駐車場をご利用の場合は駐車料金の一部を助成しています。



毎月第3日曜日は「家庭の日」です
～ 家族とのふれあいを大切にしましょう ～



毎月7日は「健康の日」です。
～ 歩くことから健康づくり、運動することを習慣にしましょう ～



発行：石川県健民運動推進本部

〒920-8580 金沢市鞍月1丁目1番地
石川県女性活躍・県民協働課内 健民運動推進本部

TEL 076-225-1366
FAX 076-225-1374

ホームページ

健民運動

検索

E-mail kenmin-i@pref.ishikawa.lg.jp



QRコード